

町小だより

平成30年
7月23日
No. 622
御免町小学校

「子どもの声を聴く」それが教育のはじまり

校長 藤井 聡

西日本を中心とした各地での被害、子どもたちを巻き込んだ様々な事件、事故・・・これらの報道に胸が痛みます。当たり前だと思っている『日常』が、とても尊いものだと気付かされます。

学校生活を含む子どもたちの『日常』の中で、私たち大人が考えていかなければならないことはたくさんあります。

私はよく「心の距離」という言葉をつかいます。それは、教師と子どもの関係、子ども同士の関係において、心と心のつながりや結びつきの強さがとても大切だと考えているからです。「心の距離」は、子どもたちの学びの質を左右します。子どもたちが生き生きと学ぶ環境づくりにおいて、大きな力を発揮します。

この「心の距離」が近い人を子どもたちは「好きな人」ととらえます。自分にとって都合のいい人を「好きな人」ととらえているわけではありません。ずいぶん厳しいことを言われても好きな人もいれば、優しい言葉をかけてもらっているのに嫌いな人もいます。これは、子どもたちが直感的に、「この人は自分を大切にしてくれる人か」「自分の心の声を聴いてくれる人か」を判断しているからです。

そして、子どもたちは、嫌いな人との関係を遮断しようとし、言い返すと面倒くさいので、注意された時には、（納得していなくても）言うことを聞きます。指導に当たる側がこのような関係で満足しては、子どもたちの真の成長には結びつかないのは言うまでもありません。

「子どもの声を聴く」——これは簡単そうでとても難しいことです。言葉にならない声を拾い上げ、推し量り、包み込むようにして子どもと接していくことが求められます。毅然とした態度をとるだけではなく、時には子どもたちの世界に踏み入って、おどけたり、冗談を言い合ったりして緊張をほぐしていくことも必要です。そして、子どもたちが、ふっと洩らした「本音」を拾い上げていくこと、受容していくことで信頼関係が築かれていきます。

もうすぐ1学期が終わります。お子さんを御家庭・地域にお返しします。お子さんと接する時間も増えます。これを好機ととらえ、御自身が「子どもの声を聴く」ことのできる存在であったかどうか、振り返ってみてはいかがでしょうか。

保護者の皆様、地域の皆様、関係の皆様には1学期間、本当にお世話になりました。心より感謝申し上げます。

厳しい暑さが続きます。どうかお身体を御自愛くださいますようお願い申し上げます。お元気で過ごしてください。